

全国から寄せられる電子メールからみた 「野生動物における疥癬症^{かいせん}の発生状況」

学芸員 増田 泰

疥癬症はセンコウヒゼンダニというダニの寄生によっておこる皮膚病で、脱毛などの症状を伴います。病状が進むと、皮膚が厚いかさぶた状になり、運動障害をおこしたり、失明することもあります。外見上も見るも無惨な姿になってしまいます。重症例では餌を獲ることもできなくなり、次第に衰弱し、死にいたります。

知床では1994年頃から、キタキツネやエゾタヌキの間で流行し、1996年頃流行はピークに達しました。尾の毛などがすっかり抜け落ちたキタキツネの姿を記憶されている方も多いと思います。

1998年以降流行は下火になりましたが、疥癬症の流行にともない、キタキツネの減少も確認され、多くのキタキツネが疥癬症で命を落としたと考えられています。博物館では流行終息後も、再流行がないか監視を続けています。

このように、知床ではひとまず一時期のような大流行は見られなくなりましたが、

「他の地域ではどうなのか？本州でも疥癬症は流行しているのだろうか？」

そんな疑問から、博物館のホームページ上で、疥癬症にかかったキツネやタヌキに関する情報提供を呼びかけてみました。

当初は情報などほとんどないかと思っていましたが、蓋を開けてみると、具体的な情報が全国各地から届いています。

これらの情報から、

- ・疥癬症の野生動物は北海道から九州まで全国で確認されている

(右のマップが情報の寄せられた地点です)。

- ・北海道ではキツネ・タヌキ、本州以南ではタヌキが多く、九州ではアナグマでも情報があつた。

本州ではもともとキツネに比べ、タヌキのほうが生息数が多いためと思われます。アナグマの疥癬情報は大分県の方からの情報です。

- ・生ゴミ処分場、市場、餌付けが行われている場所、野良猫に餌を与えている場所などで疥癬症の野生動物が多く発見される。

これは人為的な餌が多く手に入る場所には、多くの野生動物が引き寄せられ、疥癬症の流行を誘発していることを示しています。

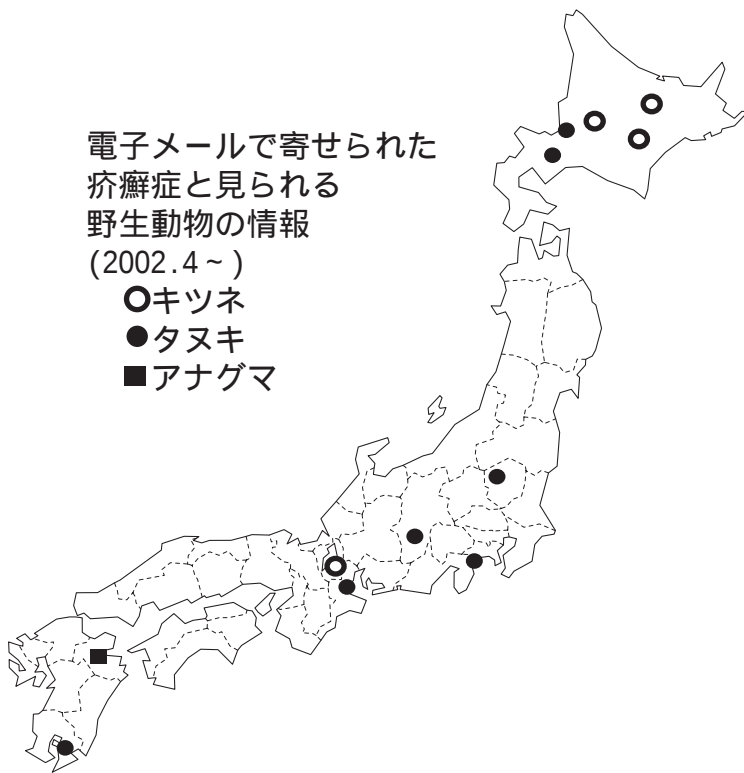


疥癬症のホンダタヌキ (長野県下伊那郡高森町)

長野県加藤博己氏提供

電子メールで寄せられた
疥癬症と見られる
野生動物の情報
(2002.4~)

- キツネ
- タヌキ
- アナグマ



電子メールでの情報収集は受け手側で事実確認することが難しいため、あくまでも参考にしかならないかもしれませんが、広い範囲の大まかな傾向を把握するには、有効な方法と言えそうです。

電子メールによる情報提供の呼びかけは今後も継続して行います。

～事務局よりお知らせ～

4月から、新年度が始まります。

住所変更などございましたら電話・FAX等でご連絡下さい

発行 斜里町立知床博物館協力会 2003.3.15

099-4113

北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内

TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257

<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>